

若い女性に増えている「子宮頸がん」

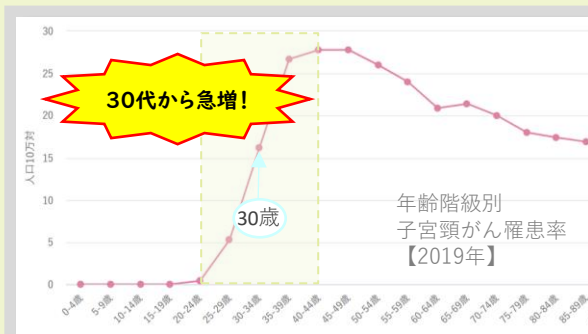


↑↑↑
ホームページには
健康情報が
盛りだくさん!

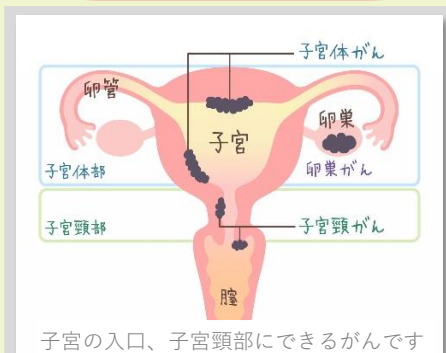
◆20代からかかる「がん」!!

子宮頸がんの特徴は、他のがんと異なり「若い人がかかる」ということです。

特に20代からかかる人もおり、出産年齢と重なることもあって、女性にとっては深刻な病気です。

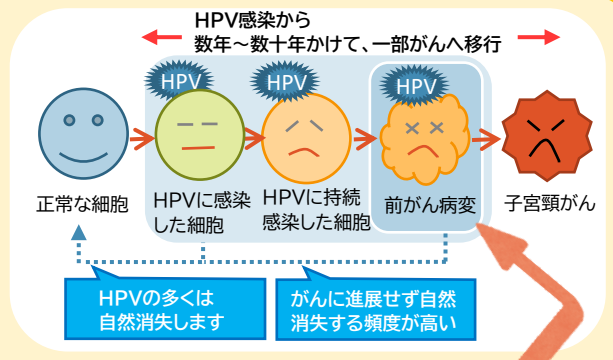


子宮頸がんとう子宮体がん



◆原因はヒトパピローマウイルス (HPV)感染

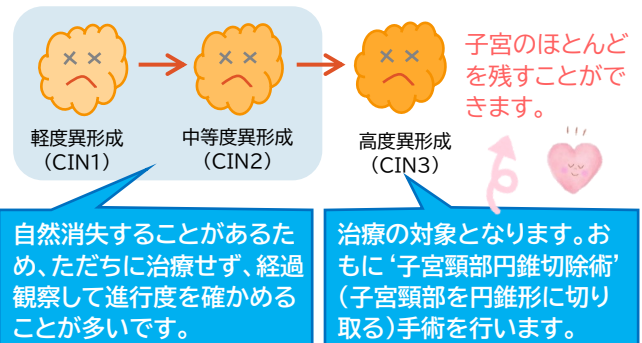
HPV感染は、性交渉のある女性であれば多くの人が生涯で一度は感染するといわれている一般的なウイルスです。感染してもほとんどの人はウイルスが自然に消えますが、一部の人で感染が持続し、前がん病変を経てがんになってしまうことがあります。前がん病変は自然消失する頻度が高いため、長期間の経過観察が必要となります。



◆子宮頸がん検診が大事なわけ...

がん検診の目的は、がんを早期に発見し、適切な治療を行うことで「がんによる死亡を減らす」ことです。子宮頸がん検診はそれに加えて、「将来の妊娠・出産を可能とする」ことで女性のライフステージを守ります。子宮頸がんの治療に子宮摘出術がありますが、がん検診により「前がん病変」を発見することで、将来妊娠・出産を希望するのであれば子宮温存手術を選択することができます。

重要なのは、この「がんになる前の状態」=「前がん病変」(子宮頸部異形成といいます)を子宮頸がん検診で見つけることです!



自然消失することがあるため、ただちに治療せず、経過観察して進行度を確認することが多いです。

治療の対象となります。おもに「子宮頸部円錐切除術」(子宮頸部を円錐形に切り取る)手術を行います。

子宮頸がん検診

子宮頸がん検診には2つの方法があり、同時に検査することができます。

国が推奨する細胞診

住民検診や職域検診として、死亡率減少効果を示す確実な証拠があり、実際の運用が確立されています。20歳以上、2年に1回が推奨されています。



HPV検査

「有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン2019年版」において、HPV検査単独法が細胞診とともに推奨されています。住民検診への導入が検討されています。

出張! 子宮頸がん検診も行っています。施設検診とあわせて、ご利用ください。

令和5年10月現在

